

アウトリーチ

通信



第40号

2022年9月20日発行
年2回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

七夕コンサート

七月二日(土)、本学講堂にて「子どものための七夕コンサート」つなげよう みんなの願いを集めて〜(「子どものためのコンサート・シリーズ」第六十一回)を開催しました(第一部十一時開演、第二部十四時開演、各六十分、来場者数・第一部三六三名/第二部二八二名、計六四五名)。

出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生の安永さくら(声



るコンサートにしました。この日は、お客様と共に織姫と彦星

楽)、稲葉彩萌(クラリネット)、田上優希(トロンボーン/打楽器)、鈴木ありあ(ヴァイオリン/ヴィオラ)、山田梨紗子(ヴァイオリン)、中村玲那(ピアノ/声楽)・高橋優佳(ピアノ)の七名でした。

今回は、七夕のストーリー仕立てで、登場人物の喜怒哀楽を音楽で表現す

の様子を見守りながら、曲紹介を織り交ぜ、楽曲についても知っていただけの形にしました。

挨拶と自己紹介を終え、モーツアルト作曲(きらきら星変奏曲)と共に幕が開

き、会場を七夕の夜の世界へと導きました。



第二曲、久石譲作曲《魔女の宅急便》より(仕事始め)では、真面目で働き者の織姫と彦星の様子を表現しまし

た。

続いてP. チャイコフスキー作曲《眠れる森の美女》より(ワルツ)とP. プッチーニ作曲のオペラ《ラ・ボエーム》より(私の名前はミミ)では、織姫と彦星が出会い、一目惚れをする様子を表現しました。

私の名前はミミ)は、普段聞く機会が少ないオペラをこの機会に聴いてほしいと思い選曲しました。お客様の反応もよく選曲してよかったです。



第五曲、S. ジョプリン作曲(メープル・リーフ・ラグ)は、二人が遊ぶばかりで仕事をしな

くなり、神様に注意されても仕事をしない様子を表現するため、

遊んでいる部分は、速いテンポで演奏し、注意されても仕事をしない部分は、遅いテンポで表現しました。

第六曲、S. プロコフィエフ作曲の組曲《ロミオとジュリエット》の小品より《モンタギュー家とキャプレット家》では、神様が怒ってしまう様子を表現



みを、G. フォーレ作曲《シチリアーノ》で表現しました。照明も舞台中心のみにして、悲しんでいる様子を演出でも表現しました。

そんな様子の二人に私たちが

できる事はなんだろう？とMCがお客様に問いかけ、みんな織姫と彦星を応援しようという提案

します。子ども達には来場時に配布した手作りの星のブレスレットを着けてもらい、演者はここまで演奏してきた楽器で応援することにになりました。楽器についても知ってもらうため、ここで楽器紹介もしました。楽器紹介では、弦楽器、管楽器、ピアノという括りで紹介しました。



私たちは、ヴァイオリンについてですが、実際子どもたちはヴァイオリンとオーリンとヴァイオリンの違いや、その他の楽器の事もよく知っていました。また、

トロンボーン、グリンサンドを

披露した際には会場全体から「おおっ」とよめきが起こり、とてもよい反応でした。



楽器紹介を終え、いよいよアクティビティに入ります。アクティビティは、R. シャーマン作曲のミュージカル《メリー・ポピンズ》より《スーパーカリフラジリスティックエクスピアードーシャス》に合わせて身振り手振りや、手拍子でのリズム打ちを行いました。

披露の際には会場全体から「おおっ」とよめきが起こり、とてもよい反応でした。

お陰で元気になった二人を表現するため、前半に演奏した《仕事始め》をもう一度、今度は楽器を増やして演奏しました。その後、年に一度だけ会うことを許された織姫と彦星が再会したところで壮大な愛の歌、E. ジョン作曲の映画《ライオン・キング》より《愛を感じて》を演奏しました。二人のように、皆様の願いも叶いますように、と願いを込めて、下総皖一作曲《たなばたさま》と、いずみたく作曲《見上げてごらん夜の星を》を演奏しました。そして最後にもう一



度、(スーパーカリフラジリステ
イックエクスピアリドローシャ
ス)でアクティビティを行い閉
幕しました。



今回の
コンサ
トは、子
どもたち
はもちろん、ご来
場くださ
る全ての
お客様に、

音楽はあらゆる感情に寄り添う
ものであると体感してもらいた
め、例年の「子どものためのコ
ンサート・シリーズ」とは違い、
クラシック音楽に加えて、ジブ
リやディズニー、昭和歌謡など、
ジャンルを問わず幅広い楽曲を
盛り込みました。コロナ渦とい
う事もあり、アクティビティで
一緒に歌うことや、楽器体験な
どを行うことはできませんでし

たが、チラシの一部デザインを
出演者(稲葉彩萌)が作成した
り(左記イラスト)、手作りのブ
レスレットを配布したりと、私
たちならではのコンサートを作
り上げることができたと思いま
す。ご来場くださったお客様を
はじめ、支えてくださった全て
の方々に感謝申し上げます。

(高橋優佳・記)



学外アウトリーチ

西宮市立門戸幼稚園

六月九日(木) 十時十五分から、西宮市立門戸幼稚園(西宮市門戸東町三十二二十五、園長・阿部久美先生)にて園児対象の「あじさいコンサート」(四十五分)を行いました。(声楽・安永さくら、ピアノ・中村玲那、ヴァイオリン・山田梨紗子、ヴァイオリン/ヴィオラ・鈴木ありあ)。



様々なジャンルの曲を聴いても
らえるよう選曲を工夫し、参加

型のアクティビティも取り入れ、音楽の楽しさを感じてもらおうとを軸にプログラムを構成しました。

初めに、迫力があり情熱的なモンテイ作曲(チャルダッシュユ)をピアノとヴァイオリンデュオで演奏した後、梅雨の季節にぴったりの湯山昭作曲(あめふり



くまのこ)をピアノと歌で演奏しました。続いて、ドツキーマウ

子どもたちに童謡やクラシック、ドイツニードやジブリなど、ス・マーチ)を全員で演奏する前に、楽器紹介や楽器についての三択クイズをしました。私たちの問いかけに子どもたちが元気によく反応してくれたので、一绪に盛り上がる事ができました。次に全員で、ドイツニードの四曲をメドレーで演奏した後、



中川ひろたか作曲(にじ)きつと明日はいい天気)をピアノと歌で演

奏しました。久石譲作曲(とりのトロロ)よりは、音楽に合わせて一緒に歌いながら体を動かすアクティビティを取り入れました。子どもたちは笑顔で元気に参加してくれました。続いて、ブラームス作曲(ハンガリー舞曲第五番)をピアノとヴァイオリンデュオで演奏した後、ロペス作曲(アナと雪の女王)より(レット・イツ



ト・ゴー)を全員で演奏しました。最後に、中川ひろたか作曲(世界中のこどもたちが)を皆で歌い、楽しい雰囲気ですコンサートが終演しました。

今回子どもたちの反応を近くで感じながら演奏したことで、音楽には演奏する側と聴き手との間でコ

ミュニケーションが必要不可欠であることを実感しました。改善すべき点、反省すべき点はありましたが、子どもたちが別際に「また来てね!ありがとう!」と声をかけてくれたのがとてもうれしく、大きな励みとなりました。(山田梨紗子・記)

稲本先生 インタビュー

今年度からアウトリーチ・センター長になられた稲本渡先生にインタビューしました。

―稲本先生の今までの音楽に関わる活動歴を教えてください―

クラリネットをしていた父の影響で五歳で始め、一週間後に本番で吹いていました。なので芸歴三十七年ですね。父や兄と一緒に地域や全国の人へ音楽を届ける活動から始まり、年間百回近くの本番を重ねてきました。



プロの音楽家になりたいわけではなく、色々な人の縁や

出来事を経て、本格的に音楽への道を志すようになり海外の大学へ進学しました。海外で経験を積みながら「プロになるならば、オーケストラに入りたい」と思いオーケストラのオーディションを受け、PAC（兵庫芸術文化センター管弦楽団）との

出会いがあり日本に帰国しました。帰国後オーケストラで研鑽を積む一方で「これからは演奏家自身が工夫して音楽活動をする時代になる」と感じ、自分で『株式会社音屋組』という会社を設立しました。その時の企業理念の一つとして「若い奏者を育てたい」ということを掲げたんです。その理念の下若い音楽家と仕事をする中で、彼等から「もっと早く、大学でこういうことを学びたかった」という声がありました。当時は「今の大学でこういうことは学べないんだからしょうがないよ」と言っ

ていましたが、偶然にも本学とご縁をいただきました。こうして今「音楽活用の術×クラリネット」で自分が培ってきたこと・伝えたいことを大学で伝えることができないように

なりました。―アウトリーチ活動への想いを教えてください―



僕自身のアウトリーチ活動の中でとても印象深い記憶は、中学生の時に老人ホームへ訪問した時の記憶です。二年続けて依頼があった場所で、プログラムの相談をした時に「去年のすぐくよかったですので、同じでお願いします」と言われたんです。去年もやったのに一緒にいいの

あるから、学生たちにもそんな体験をしてもらいたいと思っと思っています。僕自身のな

か？と思っていると「去年聴いた方は全員いません」と言われました。終末ケアの施設だったんです。さらに「昨年のコンサート後に、良い音楽が聴けたと多くの方が旅立られた」とも伺いました。しかし衝撃はこれで終わりませんでした。実際ソロで演奏していると、一番前で聴いていたおばあさんが僕の事を神様か仏様かのようにずっと拝んでおられるのです。音楽の力ってすごいなと。「アウトリーチは音楽の力を肌で感じられる」と

と体感しました。この出来事が



りたい音楽家像は、昔も今も『おじいちゃんになって各地の老人ホームを回って、「誰だったかはよく分からないけど、すごくよいものを聴けた」と思ってもらえる演奏家』なんですよ。

―七月に学生たちが行った七夕コンサートについての感想を教えてください。

一言でいうと、感動しました。演奏のレベルなど改善点がありますが、学生たちがお客様に対して「自分たちは何ができるか」を真剣に考え、想いが詰まった演奏だった。本学のアウトリーチは歴史も長く、全国的にも顕著な実績を積んでいるのはわかっていましたが、改めて学生たちのポテンシャルの高さに驚かされました。

―七夕コンサートを踏まえて、後期のアウトリーチ実習ではどんなことを学生たちに意識してほしいですか？

七夕コンサートで学生たちは「お客様に喜んでもらう」ということをしっかり学べたと思います。だからそれをブラッシュアップして行ってほしいですね。技術力も上げていきながら。初めて行く場所で、その場・空間を自分たちのものにできるかが課題になってきますね。

―将来的にアウトリーチを履修した学生たちに、どうなっていてほしいですか？

率直に言うと、音楽を仕事にする人が増えてほしいです。受け身で待っているだけでなく、積極的に機会を創出する学生が増えればいいな。自分達で、音楽（機会）の畑を耕すみたいなイメージです。その畑に肥料が



な形であれ、音楽で学んだ力をたくさんの人に届けてくれるとうれしいですね。

必要であれば、僕も卒業後もサポー
トしたい、
そう思っ
ています。
どのよう



稲本 渡 (クラリネット)

大阪府立淀川工科高校吹奏楽部を経て、オーストリア国立グラーツ音楽大学を満場一致の最優秀で卒業。国際音楽週間 01 年度・02 年度のオーストリア代表、オーストリア国立放送にソリストとして出演、グラーツ国際音楽院講師も務める。08 年～11 年：兵庫芸術文化センター管弦楽団クラリネット奏者。京都御苑での奉納演奏、ビルボードライブ、演劇にも出演し、映画では音楽家役で出演。

一方で、全国各地でのオーケストラツアー等のプロデュース、おおさか地域創造ファンドの採択を受け、音楽と地域資源とのコラボレーション事業を展開するなど多方面で活躍。2017 年より堺親善アーティストに就任。神戸女学院大学音楽学部専任講師。

今後の活動

子どものための

音楽作りワークショップ

第十一回「音で遊ぼう!子どものための音楽づくりワークショップ」を九月二十四日(土)に音楽館ホールで開催します(九時半〜十六時)。これは東京音楽大学との連携事業の一環として、英国ギルドホール音楽院修士課程「リーダーシップ・コース」修了生を講師に招いて、学生・卒業生及び一般人を対象とする「音楽づくりワークショップ特別研修」を九月二十一日(水)から四日間実施し、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちを招いて行うものです。今年にはデッタ・ダンフォード(英国人のフルート奏者)とナターシャ・ジエラジンスキ(米国人のチェロ奏者)を招きます。

コロナの影響で二〇一九年以来三年ぶりの実施となります。楽譜も何もないところから、子どもたちと学生とリーダーとで、どのような音楽が生み出されるのか楽しみます。

子どものための

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」あわてんぼうのクリスマス」(「子どものためのコンサート・シリーズ」第六十二回)を十二月十日(土)に本学エミリー・ホワイト・スミス記念講堂で開催します(第一部十一時、第二部十五時半開演、各六十分、第一部は年齢制限なし、第二部は幼稚園年長以上対象)。

出演はアウトリーチ既習生を中心とするP i a n e t a (声楽・別所香穂、クラリネット・

反田沙耶、ピアノ・竹ヶ鼻智絵)にゲスト(ピアノ・勝間田萌)を加えた四名です。副題を「あわてんぼうのクリスマス」とし、クリスマスのお話とともに楽しいプログラムが展開されていきます。演奏曲目にはロジャース〈ドレミのうた〉やアンゲラー〈おもちゃの交響曲〉などが予定されており、楽しんでいただける仕掛けがいっぱいです。

子どものための

オルガン・コンサート

「子どものためのオルガン・コンサート」(同第六十三回)を二月二十三日(木・祝)に本学エミリー・ホワイト・スミス記念講堂で開催します(十四時開演、六十分公演、三歳以上対象)。出演はオルガニストの大木麻理(本学音楽学部非常勤講師)、本学音楽学部オルガン専攻生の森友歌(四年生)、村田沙耶(二年生)です。

お客様アンケートで「パイプオルガンを生で聴けるコンサートは珍しい」とのお声も多く、人気の公演です。オルガンの魅力をたっぷり楽しんでいただける約一時間、どうぞご期待ください。



♪ 今後の予定 ♪

◎ワークショップ

「第11回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」

日時:2022年9月24日(土) 9:30~16:00

場所:神戸女学院大学 音楽館ホール

講師:英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者

対象:小学生・中学生・高校生 先着30名

参加費:無料

応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第62回 子どものためのクリスマス・コンサート ～あわてんぼうのクリスマス～」

日時:2022年12月10日(土)

第1部 11:00 開演(年齢制限なし)

第2部 15:30 開演(幼稚園年長以上対象)

会場:神戸女学院 エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

出演:別所香穂(声楽)、反田沙耶(クラリネット)、竹ヶ鼻智絵(ピアノ)、勝間田萌(ピアノ)

入場料:大人500円、子ども300円

応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第63回 子どものためのオルガン・コンサート」

日時:2022年2月23日(木・祝) 14:00 開演※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

会場:神戸女学院 エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

出演:大木麻理(オルガニスト、音楽学部非常勤講師)、本学学部オルガン専攻生

入場料:大人1000円、子ども(3~17歳)500円

応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれず、社会のさまざまな場にてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 幼稚園、小中学校へ:総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪ 病院や美術館へ:催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(火~金 10:00~15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp https://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

スタッフとして再び関わることができるのをうれしく思います。いつでも覗きにいらしてください！(廣瀬)

今年度より勤務しています。サポートできるよう後期も頑張ります♪(櫻本)

アウトリーチ新体制となって早半年、後期も音楽をたくさん届けるサポートをしていきます！(丹野)

伝統ある本学のアウトリーチに関われる事を誇りに思っています。(稲本)